

トキはどんな鳥か

1) 特別天然記念物、国際保護鳥、野生絶滅(環境省レッドデータブック)、ワシントン条約附属書Iに掲載

2) 分類 : コウノトリ目 トキ科 (日本と中国のトキは同じ種であり、したがって学名も同じ)

3) 体の大きさ(成鳥): 全長 約 75cm (体をまっすぐ伸ばした時のくちばしの先から尾羽の先までの長さ)
翼長 約 40cm (翼の羽の長さ)
翼開長 約140cm (翼を開いた時の左右の翼端から翼端までの長さ)
体重 約1,600-2,000g

4) 卵 : 長径約70mm、短径約45mm、重さ80-85g、青緑色の地に褐色の斑点。

5) 体の特徴

- ・非繁殖期(8月~1月)には、全身ほぼ白色。翼や尾羽等の裏側は、朱鷲色と呼ばれる独特の淡橙赤色。繁殖期(2月~7月)になると、側頭部からの皮膚脱落物を自分で羽に塗りつけ、頭、翼、背は灰黒色を呈する。
- ・後頭部には細長い羽の束(冠羽)を持ち、驚いた時などにこの羽を扇状に広げる。
- ・顔の裸出部、くちばし先端、脚は赤い。
- ・くちばしは長く(約17cm)、黒くて下方に湾曲している。
- ・外見上雄雌の区別はできないが、雄の方がやや大きい。
- ・幼鳥は全身ほぼ灰色で、翼の裏面は淡黄色、顔は黄色。

6) 食性 : ドジョウ、サワガニ、カエル、タニシ、昆虫など、動物性の餌を食べる。

7) 繁殖

- ・繁殖期には、つがいがなわばりをかまえる。他のトキ類のような集団繁殖地(コロニー)は作らない。
- ・繁殖期になると、つがいの絆を強化するのに役立つと思われる小枝渡し、くちばしを使った相互羽づくろい、擬交尾(雄が雌の背に乗るが交尾には至らない)といった行動が頻繁に見られるようになる。
- ・4月上旬、1日おきに3~4個産卵。もしこの卵がなくなると、それから10~14日後に2~3個の卵を産みます。
- ・雄雌交代で卵を温め、抱卵期間は約28日。
- ・孵化直後のヒナは体重65g程度で、目も開いておらず、自力では立てない。その後の成長は早く、孵化後40~50日ほどで飛べるようになり、巣立ちを迎える。この頃には、体の大きさも成鳥とほぼ同じになる。
- ・飼育している個体では2才で、野生では通常3才で繁殖を始める。

8) 1年中ほぼ同じ場所で暮らすが、非繁殖期には群れを作り比較的広い範囲を移動する。

9) 分布

- ・20世紀初頭には、中国、ロシア、朝鮮半島、台湾、日本など、東アジア一帯に広く分布しており、決して珍しい鳥ではなかった(右図参照)。
- ・江戸時代、日本でも函館から沖縄までほぼ全国に生息していた。その後、乱獲と生息環境の悪化により東アジア一帯で減少が進み、20世紀後半までには、中国と日本を除き絶滅している。
- ・これまで、野生のトキは、中国陝西省洋県及び同省寧陝県のみに生息していたが、佐渡で平成20年から放鳥が開始され、平成24年9月までの放鳥総数は108羽となった。



[トキの生息地]